

TMRセンターの管理運営を協議



(総務委員会の答申を述べる柿原徳則委員長)

理事十二名、監事三名(一名欠席)の出席のもと、以下の四つの協議事項等を審議決定した。この審議にあたっては、去る十二月十七日開催の総務委員会、同月十八日開催の生産委員会の答申結果を踏まえて審議した。

■各委員会からの答申等報告事項

一 第四回総務委員会

- 一 平成二十五年度上期監事監査の指摘事項に対する回答
- 二 定款第二十七条にかかる役員定数職員の業務執行体制と定年再雇用規程の一部変更等
- 三 事業未収金の上限額の設定並びに受託販売生乳代金の精算時における債権回収の優先順位
- 四 貸倒引当金の引当基準
- 五 ※右記三、四、五は継続審議扱い

二 第三回生産委員会

- 一 平成二十五年度上期監査の指摘事項に対する回答
- 二 広酪TMRセンター(仮称)の運営
- 三 事業未収金の上限額の設定並びに受託販売生乳代金精算時の債権回収優先順位の扱い



(生産委員会の答申を述べる温泉川寛明委員長)

協議一 平成二十五年度上期監事監査の指摘事項に対する回答

▼去る十一月二十二日開催の第十回理

事会において、十一月十一日から十四日に亘り行われた監事監査による「平成二十五年度監査報告書」の提出を受け、この受理を決定。この指摘事項等に対する回答書の作成と監事会への提出を決定した。

協議二 定款第二十七条にかかる役員定数

▼去る九月二十六日開催の第八回理事会における審議経過の中で、理事と監事の定数における実数に関しては、理事九名(三名減)、監事三名(一名減)の合計十二名(四名減)を妥当としたが、定款変更案では、欠員による補欠選任等も考慮する中で、「理事は六人以上九人以内」、「監事は二人以上三人以内」の定数枠としていた。

▼この内容では「役員推薦委員が役員定数の範囲から、推薦人数の調整に困惑するのではないか」との監事意見があり、定款変更も同様に定数の範囲を設けず、理事九人、監事三人の役員定数とすることを決定した。

協議三 広酪TMRセンター

(仮称)の運営

▼広酪TMRセンターの統合整備工事に着手する中で、上部団体から全国に先駆けてのモデル事業として、飼料イネ(WCS)を使ったTMR飼料製造に対する研究開発や指導体制等の支援提案を受け、安価で良質な飼料づくりに向けて前向きに検討することを決定した。

▼また、TMRセンター統合後の飼料製造や飼料運搬、飼料イネの刈取り作業等、外部委託も含めた運営を今後検討していく方向づけとした。

協議四 子会社山陽乳業(株)のセクシヤルハラスメントに関する経過と再発防止策

▼去る十二月二十四日開催の同社監査役会と取締役会での審議結果をもって提出された同社からの対応内容を審議した。

▼これらに対する審議結果をもって同社に伝えることを決定した。

報告事項

- ① 子会社「山陽乳業(株)」管理と経営状況
- ② 組合員に関する不良債権処理に対する今後の行動
- ③ 平成二十五年産生乳計画生産の進捗状況
- ④ 平成二十五年産乳質ペナルティの状況と今後の取り組み
- ⑤ 飼料イネ(WCS)確保への行動
- ⑥ TMRセンター統合整備にかかるとる機械装置等の設置・搬入スケジュール
- ⑦ 製造TMR飼料の飼養管理紹介マニユアル(案)
- ⑧ 平成二十五年産十一月度の生産基盤調査結果
- ⑨ 3M事業25の進捗と事故発生状況
- ⑩ JA全国監査機構一般監査報告書の受理
- ⑪ リース事業の事務取り次ぎ
- ⑫ 組合員に及ぶリース事業事務取り次ぎ対応
- ⑬ 第七次中期三か年計画に対する役員企画提案
- ⑭ 国による平成二十六年産酪農関係事業概要(予算)
- ⑮ 職員に対する年末賞与の支給

日々徒然

かがやき



▼今年はずうま年、何事もうまいくことを期待したい。

▼昨年、世間で話題となったユーキャンの流行語大賞では、「今でしょ!」「おもてなし」「じえじえ」「倍返し」など多くの流行語が生まれた。

▼その他トップ10には「ご当地キャラ」「アベノミクス」「特定秘密保護法」「PM2.5」「ブラック企業」「ヘイトスピーチ」があった。

▼これら世相を表す「言葉」に、今年はどうな「言葉」が選ばれるのであろうか楽しみである。

▼昨年末に清水寺で発表された一文字は「輪」。この漢字一文字は、日本漢字能力検定協会が主催し、日本だけでなく中国や台湾からの募集も受けて選定されている。この輪には、二〇二〇年東京五輪誘致成功や二〇一四年のワールドカップ日本代表出場決定、東北楽天の日本シリーズ優勝の「歓喜の輪」。各地で起こった台風や竜巻などの支援の輪を必要とする「人とのつながりの輪」。友達の輪を繋いできた昼の人氣番組「笑っていいとも!」の来春

終了も含まれているという。

▼広酪では、今春には現在統合整備にあたっているTMRセンターの運営開始、来る四月一日をもって平成六年の県下一本の専門農協・広酪発足二十周年目の節目の年にあたる。これまで組合員や役員のご尽力があって、いまの組合があるものと関係各位を含め敬意を表したい。

▼今年の通常総会では、平成二十六年産を初年度とする「第七次中期三か年計画」の策定議案を上程する予定であり、既に準備に入っている。

▼組合員の皆さんや役員からの多くの意見や提案を受けて、組合の将来に向けた前向きな事業計画にしていきたい。これらの提案等がありましたら、巡回職員にお話し頂きますようお願い致します。

▼一年が終われば早かったと感じるが、年初にあたり駿馬の如くスピーディに、そして、「うま年に賭ける」強い意気込みをもって、今年一年共にがんばっていきましょう。

(T・Y)

